

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

児童生徒が、「強く、明るく、豊かに」毎日を過ごし、レジリエンスを高め、原籍校へ戻っていける学校をめざす。
・児童生徒一人ひとりの個性と可能性を大切に、「楽しく学び、ともに育ち、豊かに生きる」教育の実現。
・地域の学校や関係機関との協働推進による病気やけがの子どもたちへの支援の拡充。

2 中期的目標

1 児童生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びの充実

- ① 児童生徒の病気やけがの状況に応じた指導内容や指導方法の工夫等を充実させるために多様な教育活動に取り組む。
- ② 小学部・中学部段階から将来をみすえた自主性・自立性を育成するため、発達段階に応じたキャリア教育の充実をめざす。
- ③ 「主体的対話的で深い学び」をめざした授業や、自立活動を充実させ、児童生徒が自分の病気やけがに向き合い、心身の安定と自己肯定感を育成する教育力を身に付ける。
- ④ 確かな学力の定着と学びを深化させるため、1人1台端末を効果的に利活用した様々な体験(間接的・疑似的)や、プログラミング的思考の育成、読書活動の推進、本校と各分教室間や原籍校とつなぎ、協働の学びの充実をさらに推進する。

2 府立学校として、センター的機能の新たな発揮に取り組む

- ① 地域校で、急増する不登校児童生徒に対して府立支援学校として、ASD などの発達障がいである可能性のある児童生徒に対する支援やアセスメント方法の研究や実践に取り組む。
- ② ICT 活用を通して、校内授業及び原籍校復帰に向けた取組みに、オンライン授業等を積極的に取り入れ、センター的機能として、羽曳野支援に転籍しない児童生徒が在籍校とオンライン授業等でつながる環境づくりを支援していく。
- ③ 地域や医療等との連携を充実させ、専門人材の活用や経験の少ない教職員の育成を含めた教職員の専門性の向上を図る。

3 安全で安心な学校生活をおくることができる学校づくり

- ① 児童生徒が安心して学校生活ができるよう、環境改善や児童生徒の人権を尊重する学校づくり。

4 教職員の働き方改革

- ① 教職員が効率の良い働き方ができるよう工夫を凝らして「校務運営の効率化」に取り組む。
- ② 全校一斉定時退庁日を設定し、教職員の業務量の適切管理等をすすめる学校づくり。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 6 年 11 月～実施分〕	学校運営協議会からの意見
<全体> ・今年度の傾向として、各項目で「そう思う」の割合が増加している。特に児童生徒、保護者にその割合が多い。コロナ感染症における病院内での制限緩和が、子どもたちや保護者等の関りにおいて以前の状態に戻ってきていると考えられる。 ・教職員の評価が高く、児童生徒の評価が低い項目が複数見られ、特に「キャリア教育」について、教職員の否定的回答は7%に対し、児童生徒の回答は38%とずれが大きい。指導する側とされる側の意識の差をしっかりと意識した指導の改善が必要。 <児童生徒> ・①「学校に行くのが楽しい」②「授業はわかりやすい」の2項目は昨年度から5%上昇し、95%前後になった。また、⑪「いじめ」に関する項目では、肯定的回答が15%向上した。困ったときに教員が対応してくれるという安心を児童生徒が日頃から感じていると考えられる。 ・残りの8項目も例年通り肯定的回答が80%であり、取組みの連続性が伺える。 <保護者> ・全体的な傾向として、全項目で「そう思う」の回答が昨年度より増加。14%以上増加した項目もある。肯定的回答が増加している。 ・①「学校へ行くのが楽しい」②「授業が分かりやすいと言っている」の肯定的回答がいずれも98%以上となった。 ・⑦「災害時における学校の対応」については、「そう思わない」の回答が微増ではあるが増加している。今年度、多くの教職員向け訓練を悉皆で実施したが、保護者への情報として届いていないと思われる。入級時の学校からの説明で、災害時における対応について丁寧な説明を心掛ける必要がある。 <医療関係者> ・例年と同様に「そう思う」よりも「だいたいそう思う」が多い項目が全体8項目中7個項目を占めた。学校と病棟間での情報交換にどんな工夫が必要か今後検討が必要。 <教職員> ・今回、15 項目中 14 項目で肯定的回答が90%を超えている。継続した取組みの結果と考えている。 ・課題としては、児童生徒と教職員で大きく認識が異なる項目の一つに、③「キャリア教育」があり、教職員の否定的回答が7%であるのに対し、児童生徒は38%が否定的回答をしている。今後、しっかりと分析を進め課題と進め方等について検討してが必要である。	第1回 令和6年7月12日(金) <主な案件> ・R6の学校経営計画の説明 「学校経営計画」を踏まえた学校運営の充実について ・教科用図書採択についての説明 ・学校紹介（本校、訪問、各分教室など） ・校内プロジェクト事業について <主な意見> ・入院している児童生徒の治療実績が上がっている。退院後や成長していく過程での生き方などについて幅広い教育活動をお願いしたい。 ・PT の取組み等、是非とも地域校と連携して進めていってほしい。 第2回 令和6年12月13日(金) <主な案件> ・校内見学 ・学校教育自己診断の速報値報告 ・これまでの学校活動の様子について（オンライン校外学習、オンライン修学旅行、各分教室の様子など） <主な意見> ・キャリア教育の継続について今後もどんどん強化して行ってほしい。 ・回収率の表示、及び質問項目によっての回答のズレをピックアップして改善策にいかして行ってほしい。 ・各行事に工夫が凝らされており、子どもたちが学校生活を楽しんでいる姿が印象的。 第3回 令和7年3月3日(月) <主な案件> ・学校教育自己診断分析報告 ・R6学校評価とR7学校経営計画の説明と承認 ・校内プロジェクト①と②の進捗状況説明など <主な意見> ・R7学校経営計画について承認 ・「キャリア教育」の取組みについて教えてほしい。 ・キャリア教育に関して、様々な職業の方とオンラインでつないで話を聞くような取組みを推進してほしい。 ・病院との情報共有の充実の工夫はどうしているのか？

府立羽曳野支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1. 児童生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びの充実	① 児童生徒の病気やけがの状況に応じた指導内容や指導方法の工夫等を充実させるために多様な教育活動に取り組む。 ② 小学部・中学部段階から将来をみすえた自主性・自立性を育成するため、発達段階に応じたキャリア教育の充実をめざす。 ③ 「主体的対話的で深い学び」をめざした授業や、自立活動を充実させ、児童生徒が自分の病気やけがに向き合い、心身の安定と自己肯定感を育成する教育力を身に付ける。 ④ 確かな学力の定着と学びを深化させるため、1 人 1 台端末を効果的に利活用した様々な体験(間接的・疑似的)や、プログラミング的思考の育成、読書活動の推進、本校と各分教室間や原籍校とつなぎ、協働の学びの充実をさらに推進する。	① 現在、本校及び各分教室で行われている自立活動などの特徴ある教育活動について、全教職員への情報共有や内容の整理に取り組む。 ② 新たなカリキュラムとして、作業学習や実習(作成や販売等)を計画立案し、試行を通じて、授業として確立できるよう取り組む。 ③ 入院してくる児童生徒の原籍校での取り組み等の実態をしっかりと把握したり、最新の授業研究の確認などで授業内容の改善につなげる。 ④ 本校、分教室間を ICT 機器で繋いで、学校全体や分教室間での児童生徒の交流を深める行事の実施や、外部機関との連携で、ICT 活用により間接的・疑似的体験を実施する。	① 年度内に自立活動等に関する精査とまとめを完了する。 ② 試行実施後に、児童生徒向けのアンケートを実施する。 肯定的評価の割合：70%以上 実際に販売実習まで実施する。 ③ 近隣の小学校、中学校への授業見学を計画的に実施。 R 6 は、延べ 10 回以上 ④ 校内交流や外部機関との連携授業の実施。 [年間 3 回] R 6 は年間 4 回以上実施	① 年度内のまとめは完了。年度末総括にて全教職員への周知を行う。(○) ② 1 月 31 日(金)に阪南分教室の学習発表会にて「阪南マルシェ」を実施。クラフト(さをり織り、革細工など) D I Y (いす、テーブルなど) 冬野菜の収穫・販売を実施した。 *アンケート結果は、作業の感想が 100%。次回の活動希望が 78%の肯定的回答を得た。(○) ③ 近隣ではないが、不登校支援を行っている適応指導教室や市町村の小中学校を 10 回以上訪問見学実施した。(○) ④ オンライン校外学習やオンライン修学旅行、全校交流会などで活用し、年間 4 回以上実施。(○)
2. 府立学校として、センター的機能の新たな発揮に取り組む	① 地域校で、急増する不登校児童生徒に対して府立支援学校として、ASD などの発達障がいである可能性のある児童生徒に対する支援やアセスメント方法の研究や実践に取り組む。 ② ICT 活用を通して、校内授業及び原籍校復帰に向けた取組みに、オンライン授業等を積極的に取り入れ、センター的機能として、羽曳野支援に転籍しない児童生徒が在籍校とオンライン授業等でつながる環境づくりを支援していく。 ③ 地域や医療等との連携を充実させ、専門人材の活用や経験の少ない教職員の育成を含めた教職員の専門性の向上を図る。	① 不登校児童生徒の支援に、昨年立ち上げた PT を継続活用し、PT 内で認知機能の支援や SST の指導について専門知識を学び、校内での授業実践をめざす。 ② 復帰(退院)に伴う原籍校とのオンライン活用や地域校と入院児童生徒とをつなぐオンライン授業の支援に、昨年立ち上げた PT を継続活用する。 ③ 全国・近畿・大阪の病弱教育研究会に参加するとともに、実践発表を通して情報共有、情報交換を行い、教員の専門性の向上を図る。	① ・年度内に PT での成果発表を校内向けに実施。 ・校内で、認知機能支援や SST 指導、アセスメントなどで得た知見で授業実践を行う。 ② ・年度内にオンライン授業について、設置から配信するまでのマニュアルを作成する。 ・本校内(分教室含む)で、オンライン授業の試行を実施する。 ③ R 6 大阪病弱研究会幹事校として、業務や予算を見直し、持続可能な運営を遂行し病弱教育の向上に寄与する。 R 6 年度中に改革案の企画・実行	① ・全校職員会議にて PT の進捗及び今後の校内協力について説明した。(○) ・羽曳野支援学校の本校・分教室で、試作したアセスメント表にもとづく評価観察や紐づけた支援実践を実施。結果検討を行う。(○) ② ・マニュアルについては R 6 年度版として完成。(○) 今後、試行を通じて改善は随時。 ・3 学期に各分教室や本校間でオンライン授業の試行を実施した。(○) ③ 会の持ち方や予算立て、冊子作成については、今年度で改革。概ね肯定的な感想をいただいた。(◎)

府立羽曳野支援学校

3. 安全で安心な学校生活をおくること ができる学校づくり	① 児童生徒が安心して学校生活ができるよう、環境改善や児童生徒の人権を尊重する学校づくり。	① ア 防災、防犯について、全校研修(本校及び各分教室をすべて含んだ)の企画・計画し、教職員のスキルの向上を図る。 イ 危機管理マニュアルの見直しをする。	① ア 教職員向けに、 ・ 防犯、さすまた研修(警察署の協力による)の実施。 ・ 救命救急講習(消防署の協力による)の実施。 ともに全職員が参加する。 イ 今年度中に危機管理マニュアルを改定し、試行・検証まで実施する。	① ア 防犯研修、さすまた研修ともに警察署の協力を得て開催実施。救急救命講習も消防署の協力のもと実施でき、悉皆で行えた。(◎) イ 危機管理マニュアルは完成。今後随時改訂し、順次試行検証をアンケート調査等を通じて行っていく。(○)
4. 教職員の働き方改革	① 教職員が効率の良い働き方ができるよう工夫を凝らして「校務運営の効率化」に取り組む。 ② 全校一斉定時退庁日を設定し、教職員の業務量の適切管理等をすすめる学校づくり。	① グループウェアや学習支援クラウドサービス等を活用して校務運営の効率化を実施する。 ② 全校一斉定時退庁日のさらなる徹底や校務運営の効率化を実施する。	① 校務効率化に向けた新しい取り組みを、1つ以上実施する。 ② 全校一斉退庁日を毎週水曜以外に月1回以上増やし、定着させる。	① 教職員向けのアンケートなどは、グループウェアのフォーム機能を使った形で効率化を図った。(○) ② 給料支給日を定時退庁日に加え、今年度順調に実施し、定着できている。(◎)